



浜家連 ニュース3月号

第271号

2023年3月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836

URL <http://hamakaren.jp/>

東京電力福島第一原子力発電所視察旅行

副理事長 土屋 克也

昨年経験した「東京電力福島第一原子力発電所」の視察旅行の内容を書かせて頂きます。1号機建屋
昨年11月6日日曜日から一泊二日で福島第一原発（敷地面積約350万㎡、東京ドームの約75倍の広さ）を視察して参りました。

メインの原子力発電所の見学は二日目の月曜日、いわき市のホテルからバス移動で、
まずは、東京電力廃炉資料館に到着後、現状の報告と廃炉への道のり説明を受けました。
廃炉資料館は、富岡町の中心部に有り、当初は原発広報館の役目でした。いわき市から北に廃炉資料館まで30kmほど。廃炉資料館から第一原発までは凡そ北に10km。廃炉資料館から南に福島第二原発までは数km、Jヴィレッジまでも凡そ10kmの距離です。



第一原発の発電能力は1号機から4号機合計281.2万KW。5号機6号機計188.4万KW。総出力469.6万KW。第二原発の総出力4機合わせて440万KWとのことです。第一原発は、皆さんご存知の通り、津波の影響で、施設全域が浸水。第二原発の浸水は限定された箇所のみでした。

現在の福島第一原発は、2022年8月のデータで、平均作業員約3,500名/日（含む東電、下請け）。同様に地元雇用率約70%。給食センターの規模2,000食/日の利用を可能にしている、各協力企業には、日本の大手建設会社、商社、重工業メーカー、電気メーカーが参画している状況です。各建屋の原子炉の状況は、1号機から4号機共に、「冷温停止状態」継続中とのことで、3号機は2021年2月28日、566/566の燃料体取り出し完了。4号機は、2014年12月22日、155/1535の燃料体取り出し完了。1号機は、2020年12月19日以降 大型カバー設置準備作業開始 2号機は、2020年7月20日以降南側構台設置準備作業開始。
という具合です。そのロードマップの内容は、

- 1) 2023年頃、1号機の大型カバーを設置完了し、使用済燃料の取り出し作業開始予定
 - 2) 2027年から2028年、1号機の燃料取り出し開始。ガレキや崩した天井クレーン等の撤去、遮へいコンクリートの処置、除染等の実施
 - 3) 2024年から2026年、1号機に平行して2号機の燃料取り出し開始。原子炉建屋を解体しないで構台を設置して側面より取り出す方法を採用。
 - 4) 2031年、各1号機から6号機までの燃料取り出し開始完了を目指す予定
- 今日現在、第3期に入り、第2期で対応した燃料デブリ取り出し準備期間が一昨年の暮れ（2021年12月）までの作業で、現在は、廃止措置終了期間（30年から40年ぐらい掛けて）となっていて、相当の期間を設けて廃止措置が行われます。

当日、構内専用バスに乗り、テレビでも報道されたヘリコプターから注水された建屋を見下ろす正面崖の上（外観観察エリア）では、防護服を着ず平服のままでの視察可能でした。
ただ建屋での作業員は、きちんと防護服を着用していました。簡単に考えれば、外回りについて放射線被ばくは、無くなったようです。ただ、念のためでしょうか、視察者は、入退域管理棟内で各人小型放射線測定器を持たされ、退出の際は放射線被ばく検知器内での確認が課されました。

2号機建屋



とにかくこの地が2011年3月11日津波に襲われ、突如として戦闘激戦地域となり、多くの人が生死を分けた場所であることが事実なのに、その悲惨さは徐々に箱ものである残骸だけが残されていると実感しました。

資料出所 東電力ホールディングス株式会社

浜家連の動き



単会会長交流会に出席して

もみじ会会長 森下 喜久郎

1月31日横浜ラポール ラポールボックス及び第2会議室にて横浜18区の単会会長が集まり、単会会長交流会が行われた。

宮川理事長からタイムスケジュールの説明があり、それぞれA、B、Cの3つのグループに分かれ討議、各単会からの報告が行われた。私のグループはみなみ会、すすらん会、いずみ会、あじさいの会の6単会で討議が行なわれた。会を進めるにあたり最初に司会をすすらん会の工藤さん、発表者にみなみ会土屋さんを選出した。各グループ自由なテーマで討議が行われた。

単会のお困りごとは、毎回そうですけれども各単会とも役員のなり手がいない、役員の高齢が大きな問題点であった。若い会員を増やすためには区役所の高齢・障害課が拠点であったり、生活支援センターが拠点であったりさまざまであった。また薬の問題が出て、長く多くの薬を飲み続けたために血管がボロボロになり突然死に至った話。両親と当事者の関係で「つかず、はなれず」とは実際問題どういうことを言うのか？

最後に各グループの討議内容の発表、アンケートの記入で交流会は終了した。

一階に降りて行くと、みなと会の柏木さんとお会いしバスに乗るまで一頻りお話をしました。「いやあ～みなと会にはすごい人がいるよ」「94歳の男の方で例会の閉めはいつも彼がやってくれるんだ」「この閉めがまたいいんだよなあ～」「私なんか引くに引けなくなっちゃうよ」この話を聞いた時、思い出したことがありました。私が家族会へ入った時、両親達の年齢を色々話題にしますけれど「60～70代は草履取り」「80代は足軽」「90～100代は天下取り」という言葉を思い出し、まさにこの方は天下取りの領域に入る方だと確信しました。足軽で退会したり亡くなったりする方が多い中、今日1番のいいお話であったと思いつつ帰路につきました。

第5回市民メンタルヘルス講座が開催されました

第5回市民メンタルヘルス講座に参加して(その1) 白梅会 川合 節子

日時 1月21日(土) 13:30～16:00

場所 横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

テーマ 精神疾患がある人の恋愛、結婚、子育て

講師 横山恵子氏 (横浜創英大学看護学部・大学院看護学研究科教授

根本俊史氏 (YPS 横浜ピアスタッフ協会 めんちゃれ代表)

水月琉凧(るな)氏 (子育てピアサポートグループ ゆらいく代表)

和田公一・和田千珠子氏 (精神障害者当事者夫婦の会 負けてたまるか代表)



昨年12月、TVで北海道の施設で、入居者に妊娠しないように手術を勧めていたと報道されていた。施設長はカメラの前で、ケアできる余裕がない実情を説明し、納得してもらったと釈明していた。納得したら人権侵害にならないのか(おそらく、嫌なら施設からでてくださいというのが裏側にあるのに)。その施設でケアできないのなら、外で何か解決策はなかったのだろうか。この件について報道のコメントはなかった。落ち着かない気持ちでいたところ、今回の学習会が開催された。

学習会では、横山氏の講演のあと、実際に活動している3グループからの具体的説明がされた。

1 横山恵子氏 (講師資料を抜粋して紹介します)

「人を愛する」ことは、リカバリーの重要な要素。

これまで親と子が支援を受ける機会のないまま孤立して生きている。悩みは「親亡き後」。「病状の安定、就労、一人暮らし」が話題で、「恋愛、結婚、子育て」については話題にされず、「他者と親密な関係になること」「パートナーをもつこと」を支援される機会もなかった。反対に恋愛は、困ったこと、悩みとして家族も支援者も捉えてきた。

実際には、多くの人が結婚して、精神疾患の親を持つ子供もたくさんいるのに、子どもは「忘れられた存在」だった。

リカバリーの段階	1 希望	役割の例	・仕事	・愛とセックス
	2 エンパワメント		・家族、	・子ども
	3 自己責任		・スピリチュアリティ	
	4 生活のなかの有意義な役割		・生きがいのある生活	

どのくらいの人が結婚しているの？

国民全体（40～44才） 男性63%、女性70%

精神障害をもつ方 15%、27%、28%（調査により異なる）結婚・同居率は低い、特に発症年齢が低い場合

どのくらいの人が恋愛しているの？

結婚している25%、付き合っている14%、恋人がほしい68%（一般では、交際中2～3割、交際経験6割）

恋愛や親密な関係を阻むのは： 周囲の反対、自分自身のとらわれ等

交際しないのは：恋愛が面倒、交際がこわい、症状を安定させるのが先、働くのが先

交際していない人ほど、障がいがある交際の「支障になる」と感じている。

交際や結婚につながる出会いの促進だけでなく、幸せな恋愛や結婚ができていない事例など、安心して前に踏み出せるような情報提供が必要。

子どもの立場から（精神疾患の親をもつ子どもは沢山います）

***精神疾患の親を持つ子どもの会（こどもびあ）**（それぞれホームページがあります）

***子育てピアサポートグループ（ゆらいく）**

***精神に障害がある人の配偶者、パートナーの支援を考える会**

精神疾患の親をもつ子どもは

年齢の割に成熟して、よい聞き手（親が病気だったことは不幸ではない、病気を含めて私の家族との絆が強い 親、愛している）（辛かったのは誰も助けてくれなかったから）
時に憎みながら、親を大切に思う

*親子が孤立しない支援、大人が信頼できるという経験が支援

大人になって生ずる生きづらさ→仲間とのつながりを求める。

育児する親と様々な立場の家族を、家族丸ごと支援することで、親子の孤立を防ぐ

親や配偶者との信頼関係を作る

相談相手となる人へつなぐ（訪問看護、ヘルパーなど）

仲間とつなげる（ゆらいく、配偶者会など）

書籍紹介 「心病む夫と生きていく方法」（9人の妻の話）

「精神障害者が語る恋愛と結婚とセックス」（ここから あいりきが生まれる）

「精神障がいのある親に育てられた子どもの語り」（9人の成人した子ども）

「静かなる変革者たち」（4人の支援者となった子ども）

「あいりき」 愛する力を磨くプログラム

目標	・人として成長すること	人を愛することなく一生を終えるのは残酷。
	・リカバリーが促進されること	本人がいつか幸せになってやると諦めなければ
	・恋愛や生きることに前向きになること	幸せになれる。あいりきプログラムの全国普及

（あいりきの具体的説明、各グループの具体的説明は4月号へつづく）

2022年度家族による家族学習会に参加して

あおぞら会 廣津深緑

統合失調症の前駆期と思しき時から今までの長い経過を辿り顧みると、診断を懐疑的に捉えた初期と勉強不足から来るその後の対応に問題がありました。薬効と自然治癒力を信じ、再発を防ぎながら地域社会の中で普通に暮らせることを希望しますが、事態を肯定的に受け止めて回復を目指す学習が必要でした。

そのような折、栄区生活支援センターで開催された家族学習会があり、統合失調症を新たに学び直そうとDブロック担当者の一人として参加しました。教材の心理教育テキストの最新版「しょうずな対処今日から明日へ」を輪読し、体験や情報を交換し合う家族による水平的参画型のセッションです。実施マニュアルに沿って事前に研修会で会得したことが、講座の意義や議事進行の要所把握に役立ちました。

和らいだ雰囲気の中で、回を重ねる毎に参加者の積極的な発言も増え、共感と慰労、明日への希望の持てる充実した勉強会でした。参加者のアンケート回答に寄せられた、「学習会に参加して良かった、家族同士の勉強会がもっと続いて欲しい」、と云う多くの感想は、「情報交換、孤立から連携そして家族が持つ対処法を学ぶ」と謳った学習会の主目的が結実した表われです。

難解な専門用語を避け、平易に記述されたテキストは、咀嚼と実践のために繰り返し読むべき座右の書となります。親亡き後が心配の余り、高い感情表出である「高EE」に走りがちな傾向にブレーキをかけ、再燃・再発を防ぎ、「低EE」と適度な家族間距離を維持しながら、リハビリに向かうための大切なヒントも含まれています。道程は長くとも、薬物療法と心理社会的支援について更に学習補強をしながら、希望を持ち続けることの重要性を学びました。

単会からのたより



家族会に参加して

さかえ会 会員

12年前の2011年1月に統合失調症を発症した娘がそれまで続けていた服薬を中断したのは昨年3月でした。服薬中断の原因は、コロナワクチン後遺症、夫の仕事仲間とのトラブル、子供の幼稚園でのいじめ被害などのストレスが重なったことによるものと思われます。服薬中断後は日を追うごとに症状が悪化していき、医療保護入院を考えざるを得ない状況になっていました。しかし、どのようにして病院まで搬送したらいいのか分からず、かかりつけの病院や区役所などに相談に行ったりしていました。

その際、区役所で家族会があることを教えていただき、昨年5月の家族会の例会にはじめて参加させていただきました。その例会で娘を入院させたいと考えていることをお話ししたところ、後日家族会の方から民間救急の存在を教えていただきました。そこで早速民間救急の会社とかかりつけの病院に連絡をとり入院の準備を進めました。そして入院日が決まったのは入院の前日で、民間救急も前日の予約ながら搬送を引き受けてくださいました。

入院当日は、民間救急の方が病院から来ましたと言って娘を連れ出し、病院に搬送していただきました。病院に着いてから先生の間診中に抵抗などはありましたが、とりあえず無事に娘を入院させることができました。

民間救急を紹介いただいた家族会の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

家族会にはその後毎月参加させていただいていますが、家族会の皆様の体験談などをお聞きすることで新しい気付きや当事者フォローのヒントが数多く得られ、とても有意義な時間を過ごしています。

今後も家族会には積極的に参加していきたいと思っています。

【編集後記】 あってはならないニュースがふたたび流れました。八王子にある精神科病院、滝山病院で日常的に行われていた暴行などの虐待というより犯罪行為。行政側はなぜこれらの行為を見抜けなかったのか、憤りを感じる。この事件を詳細に調査し、法整備も含めてこのようことが二度と起こらない体制を構築して欲しいと願う。
(事務局 中居)